

0 2  
2  
5 - 3

岡島正義著  
因府歴年大雜集  
第三卷











早是影... 行月... 大般... 大般... 一... 一... 一... 一...

○元禄六 癸酉

五月... 人... 同...

一... 不... 亦...

因... 亦... 亦... 亦... 亦...

妙心寺

荒尾志摩

名乘判



一因日本寺得奇業内多伯君多後へ系時自之礼中大以修志志摩  
 所不在程より後々

寺社所存の所  
 如是院  
 万善堂印  
 長壽院  
 圓天印

角人武人角多下中ね

通じ

各ハツレヘシテウ

年四十五

下人

各トウ人

在赤印

らんサモの表

三界のミヤウミウノ絶者ミケ中取ミヨ修内何至ミ  
 中指ミハミミ中ミ年ミ多ミ老ミ竹居ミ多ミ取ミ  
 中少ミ竹居ミ知希絶ミ揚ミ中  
 在部人角人角ミミハ礼ミ文字ミミミ

表ミ文字

東 松齋ト年三十三長四  
 尺一寸面鉄弁暫生疤無

菜 主京屋吳忠秋

裏ミ文字

庚 釜山佐自川一里

此礼ノ文字年ニ依テ精疎有之ヲ  
 思案セラルルヤ

午 第十四庵三戸

梅ハ書付ハ八人五人ノ姓名を記  
 ヘシテウラ載他ハアヒヒシヤ或ハ

裏ミ文字

庚 青魯島里

アヒヒシヤラ他凡悉ク安キ姓ヘシテ  
 各向ラカシヒシヤラヒシヤシヤ

午 五永

偶々押將の鎌音ノ一音  
 多クミセラレ以テ但系ノ修ミ

裏ミ文字

丑

三十五

扑於也

又トウヘガ礼ミ庚午秋ハ庚午

山

於四十

蔚山多ク修ミ修ミ修ミ修ミ





























一ノ使節ヲ兼テ渡海セシムルニヤト思案セラルル猶博識ノ許ヲ俟リ

旦竹島ハ無人ノ孤島ノ農作ヲ務ムル地ニ非ニテ其然否ヲ察ス可シ

十二月十四日南條喜右衛門御暇役義不調法二思召也福原四郎右門進放九箇

御備役義不届思召由之木八右門進放九箇御構瀧山六右門御暇九箇

構高橋仁右門申方悪キ由ニテ閉門西村勘大夫大谷茂左門御放免人并新

右三門ノ暇之処田中喜三二三日以前に暇番不出故閉門被仰付由之以上

他日精記ヲ得バ可補之

一貞備賞書一南条喜右門御暇先長五ノ日後在居候事

一南条喜右門御暇先長五ノ日後在居候事

一南条喜右門御暇先長五ノ日後在居候事

一南条喜右門御暇先長五ノ日後在居候事

一南条喜右門御暇先長五ノ日後在居候事

一南条喜右門御暇先長五ノ日後在居候事

一南条喜右門御暇先長五ノ日後在居候事

一南条喜右門御暇先長五ノ日後在居候事

一南条喜右門御暇先長五ノ日後在居候事

一南条喜右門御暇先長五ノ日後在居候事

一南条喜右門御暇先長五ノ日後在居候事

一南条喜右門御暇先長五ノ日後在居候事

一南条喜右門御暇先長五ノ日後在居候事

一南条喜右門御暇先長五ノ日後在居候事

一南条喜右門御暇先長五ノ日後在居候事

一南条喜右門御暇先長五ノ日後在居候事

一南条喜右門御暇先長五ノ日後在居候事

以上或承ノ日誌ニ載ル

十二月廿四日昨申條條二日ニ仕方不調三思召之由ニテ閉門被仰付榎村

又大夫五年於江戸他屋敷ニ令一病依之替而閉門被仰付役儀御取上

五日去ル九日佐橋勘大夫於安養寺又共衛宅京銀之身詮議有之

一十二月廿四日昨申條條二日ニ仕方不調三思召之由ニテ閉門被仰付榎村

又大夫五年於江戸他屋敷ニ令一病依之替而閉門被仰付役儀御取上

五日去ル九日佐橋勘大夫於安養寺又共衛宅京銀之身詮議有之